第 21 回　農業高等学校生意見文全国コンクール審査講評

審査委員長　　小松﨑　将一

農業高等学校生意見文コンクールは，農業や農業関連産業の後継者・従事者として，また，農業指導者や農業に対するよき理解者として，これからの日本農業を持続，発展させる担い手となる高校生が農業および農業を取り巻く様々な環境に対する思いを意見文にまとめることにより，農業に対する意識を高め，高等学校での生活や学習を一層充実させることを期待するためのものです。日本農業教育学会主催の取り組みとしてさらに充実させ，大きく飛躍させたいと考えています。

今年度で 21 回目を迎えました本コンクールには，全国の日本学校農業クラブ（FFJ）に加盟している農業高校および農業関連学科に所属する FFJ 会員の高校生から 33 件の応 募がありました。応募された意見文は，それぞれの農業体験や実習，実践活動，研究開発などを通して，農や食への興味・関心，地域貢献や自分たちの暮らしなどへの取り組み，将来の夢などについて，高校生らしく自分の気持ちを素直に表現したすばらしい作品でした。また，自らが積極的に考え，行動し，その成果を自分なりに工夫して取りまとめた意見文も多くみられました。これらの意見文について，課題と内容の整合性，文章の論理性，説得力，さらには農業高校生としての自覚と内容の適性，意見の妥当性や建設性，将来への熱意など，幅広い観点から厳正な審査を行なった結果，最優秀賞２作品，優秀賞４作品が決定いたしました。また，これらと同様に内容のすぐれた３作品に対しては審査員特別賞を設けました。

最優秀賞に選ばれました小宮妃奈さんの『あふれる想い、商品に込めて　～大切な地域の宝を次の世代に繋ぐ～』は、コロナ対策でのマスクごしの生活の中で、香りの魅力に気づき、課題解決むけて考え、夢を実現されたことが素晴らしいです。また、内田麟太朗さんの『茶碗一杯分の想いから始まる私のサスティナブル農業』では、家庭用生ゴミの堆肥化や高騰する飼料としてのエコフィ･ﾄﾞ、そして経営分析の取り組みなどを通じて、地域の研究機関との連携も行なっており説得の力のある意見文です。

また，優秀賞に選出された豊澤拓実さんの『放牧の夢』では、酪農の厳しさを実感しながら、将来への力強い希望が述べられました。市昇敏さんの『園芸療法士をめざして』では、自らの大病のご経験から学んだことが読者にしっかり伝わるとても良い意見文です。みんなが応援したくなるような素晴らしいご意見でした。山口愛実さんの『榊原地域活性化計画～高校生からできること～』では、古代米について直接調べるだけでなく、街の人たちとの協力関係も構築されたところが高く評価できます。池上姫加梨さんの『地域とつなぐ三代の絆』は、お祖父様と一緒に真剣に肉牛生産に向かい合っている点がとても印象に残りました。経費的な配慮も行いながら夢の実現に向けて頼もしく歩んでおられる姿が

目に浮かぶ意見文でした。

審査員特別賞では、木下明希さんの『私の夢　～高校の学びで深まる「幼稚園教諭」としての目標～』は、農業が子供達の育成に大きく役立つことを実感されており、将来、幼稚園での体験活動にぜひ取り組んでいただきたいと思わせる力強い意見文です。三木咲空さんの『伝統の在り方～マニュアル化×食育～』からは伝統野菜の栽培の魅力が感じられました。マニュアル化によって栽培の普及を意識した取り組みが素晴らしいです。嶋本珠琴さんの
『鶏と私たちの未来　～自然養鶏への挑戦～』は、鶏卵の高騰などの課題解決を地域の農家に見出し、飼料の工夫をして実験に取り組んでいる点が説得力のある意見文となっています。

今回応募された意見文はすべて審査の対象とし、いずれも高校生らしい素晴らしい意見文でした。その意味で審査はかなり僅差での議論となりました。今回、惜しくも受賞されなかった作品も、ぜひ引き続き取り組みを継続され、再度ご応募いただきますようお願いいたします。これからも今までと同様に，「自らが考え，行動し，取りまとめる」という本コンクールの原点に立ち，厳正に審査を行なってまいります。

最後に，本コンクールの推進にあたり，ご協力をいただきました皆様に心より深く御礼申し上げます。